

## 編集後記

第20巻の編集も無事終わることができました。大学の歯学会は種々な専門分野の会員からなり、その意味では特殊な学会でありましょう。したがって日頃はあまり目にしない専門分野の論文を見ることにもなり、編集に携わったことによって他科の新しい知識にも触れることができました。編集委員をしていてこれが収穫の一つでもあります。

(佐藤 方信 記)

これまで集会幹事を永らく務めさせて頂きましたが、今年度から編集委員に任命されました。

編集委員の任務は、多くの論文を掲載し、雑誌を遅滞無く発行する事であるとの金子編集幹事の言葉を守り、編集委員会の一員として頑張っていきたいと思えます。会員各位におかれましては、投稿規定を遵守され投稿されますようお願い申し上げます。

岩手歯学会誌の充実を願って、伴に努力してまいります。

(久保田 稔 記)

数年ぶりに、また編集委員になってしまいました。編集委員は無報酬で、全くの縁の下での力持ちです。投稿が多くなれば、それだけ仕事量が増え、編集委員長は自分の仕事をなげうっても期日までに雑誌の刊行を果たさなければなりません。編集委員はその仕事をサポートする訳ですから、生半可な気持ちでは引き受けられない役割だと思えます。それらの仕事を出来るだけ少なくさせるのは投稿者の義務だと思えます。それには、投稿規定を守り、明確な文章で記載することが必要です。

(名和 橙黄雄 記)

学術誌にとって重要なことは、その雑誌の目的にあった質の良い論文(本誌の場合は歯学に関する論文)を掲載することは当然のことです。一方、編集する側として心掛けるべきことは、投稿された論文を早く審査し、掲載の採否を決定し、投稿者に通知すること、そして、決められた発行日を厳守することです。投稿論文が、どうなっているのか何の音沙汰もなかったり、受理後、印刷されるまでの日数が長くては、投稿する人が少なくなること必定でしょう。また、投稿する側はレフリーのコメントに適切

に回答すること、そして、校正は細心の注意を払って、かつ、素早く返送することを心掛けるべきです。4月発行なのに、8月にやっと会員の手元に届くようなことは絶対にさけるべきです。競争の激しい分野ですので、研究成果を一日でも早く、論文として発表することは重要なことですので、学会員みんなが心掛けたいものです。

(太田 稔 記)

本誌は先人の努力によって、発刊数も現在は20巻を数えるまでになりました。しかも大学院設置以来、歯学博士の論文が数多く掲載されるようになりました。時の推移とともに、雑誌も内容や投稿規定など、改正を要するところは逐次的に改められて行くことと思われまます。

金子編集委員長のもと、また投稿論文の査読作業をさせて頂くことになりました。査読に際し、各々の専門分野の特徴ある論文の主旨を短時間に判読することの難しさは、何年経験しても常に痛感させられるところです。とくにこの点は、できるだけ専門外の第三者にも理解できるような平易な文体の構成にすべく、努力していきたいと念じています。どうぞご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

(工藤 啓吾 記)

今号より編集委員として加えさせていただきました。金子編集委員長のもと、“わかりやすい”編集を心がけていきたいと思っております。

本誌の発行は重要な学会活動の1つであり、多くの会員が参加することが根底になりましょう。何らかの方法で、何らかの場面で、各々の立場から少しずつ意見を述べる場でありたいと願っております。

(石橋 寛二 記)

1995年ものこりわずかとなりました。会員の方々のご協力により20巻3号も総説1編、原著5編、症例報告2編と言う内容でまとめることができました。また、集会担当幹事佐藤方信先生のご協力で岩手医科大学歯学会第21回総会抄録も掲載することができました。次号21巻1号から新たな気持ちで取り組みたいと考えておりますので会員の皆様のご投稿をお願いいたします。

(金子 克 記)